

Business
ASPECT

PwC Japan

pwc



CAREER UNIVERSITY
AWARD 2015

プライスウォーターハウスクーパース
株式会社

最優秀賞

Oct. 23 2015



Nonprofit Organization
Career Cruise

専門性を社会で生かして成長する
「知」を
武器に戦う
プロフェッショナル集団

大学生に職業体験学習を行うキャリア教育プログラムで、コンサルティングファームのプライスウォーターハウスクーパースが「総合賞第1位」と「ベストファシリテーション賞」をダブル受賞した。日本を代表する企業や中央省庁が参加した中で、なぜ最高の評価を得ることができたのか。その理由を探っていくと、全世界でビジネスを展開するPwCグローバルネットワークの社会貢献に対する真摯な姿勢と地道な取り組みが浮き上がってきた。優れたプロフェッショナルがチームプレーで高いパフォーマンスを出す流儀は、ビジネスアドバイザーとして多くの企業から高く評価されているだけでなく、働く場としても学生から圧倒的な評価を獲得したのである。

制作 東洋経済企画広告制作チーム

リーディングカンパニーが そろそろキャリア教育 プログラムで ダブル受賞を達成

プライスウォーターハウスクーパースが参加したのは、NPO法人キャリアアクルーズが運営する「キャリア大学」。「企業がキャンパスになる」をコンセプトに大学1、2年生を対象に企業がキャリア教育を実施するというプログラムである。

2013年から行われており、総合商社や銀行、メーカー、不動産会社など各業界のリーディングカンパニーに加え、中央官庁なども授業を提供している。15年のサマークラスでは、41の企業や省庁がそれぞれ1日ずつ、工夫を凝らした体験型・参加型の授業を行った。

「キャリア大学」では、すべての授業を終えた後、参加学生の評価により総合賞と部門賞を選出している。その結果、プライスウォーターハウスクーパースは「総合賞第1位」と「ベストファシリテーション賞」を受賞した。



プライスウォーターハウスクーパース
シニアアソシエイト

井上 由喜子

この「知」を武器に戦う

と題されたプログラムはユニークで、中身が濃く、学生に感銘を与えるものだった。対話によってクライアントの本質的な課題を見出し、最適な解を提案するというコンサルタントの仕事が疑似体験するというプログラムだが、実際にPwCシンガポール法人のコンサルタントとのテレビ会議を行うなど、臨場感あふれる内容となっていた。

「知」を武器に戦う という仕事の魅力と ダイナミズムを

昼休みには海外から日本のPwCに赴任している外国人社員によるパネルディスカッションも行われ、コンサルタントという仕事のダイナミズムや面白さ、グローバル

などが実感できるものになっていた。参加した学生からは「和気あいあいとした雰囲気で、社会人は堅苦しいというイメージ

が払拭された」「社員がとても明るいのが印象的。仕事になるとプロフェッショナルになるそのギャップに圧倒された」などと、社内の雰囲気の良さを実感した声が多かったようだ。この点に関してプログラムで講師を務めた同社シニアアソシエイトの井上由喜子氏は「優秀な仲間たちと切磋琢磨しながらクライアントが抱える課題に対して解決策を提案するという、コンサルタントの仕事の魅力を大学生に伝えたいと思いました。11月からPwCの米国法人に赴任しましたが、今あらためて

その魅力を感じています」と語る。

今回の受賞については、「キャリア大学」を運営しているNPO法人キャリアアクルーズ理事長の松本勝氏も「コンサルティングの仕事は普段学生に馴染みがないものですが、その本質——真の課題を抽出し、それを解決するというプロセスを身近な例を用いて現役のコンサルタントから学べたのは貴重な体験であったと思います」と述べている。

グローバルで展開する プロフェッショナル集団 ならではの社会貢献活動

コンサルティングファーム、会計や税務のプロフェッショナルファームなどがメンバーに名を連ね、世界157カ国で展開するPwCグローバルネットワークでは、社会貢献活動をCSRとは

プライスウォーターハウスクーパース
パートナー

岡田 康夫

呼ばずCR（コーポレート・レスポンスビリティ＝企業としての責任）と呼び、より広い概念でとらえ、全世界でさ

キャリア大学でのプログラム

プライスウォーターハウスクーパース 「知」を武器に戦う

- 1 限目 「コンサルティング」を知る
- 2 限目 「コンサルティング」を学ぶ（グループワーク）
- 3 限目 「コンサルティング」を体験する（グループワーク）



column

世界での取り組み



PwCはグローバルネットワーク全体で教育支援に取り組んでいる。その中でも大きな取り組みとしてPwC米国法人が2012年にスタートした‘Earn Your Future’ (EYF)がある。15年にはこのプログラムへの拠出金額を3,000万米ドル増額し、1.9億米ドルとした。

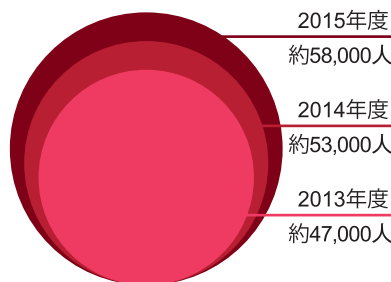
EYFでは、学生の金融リテラシー向上のための活動および教員向けのトレーニングプログラムなどの提供を行っている。

EYFはこれまで150万人以上の学生・教員を支援しており、PwCメンバーによるボランティアの従事時間の累計は70万時間に達する。

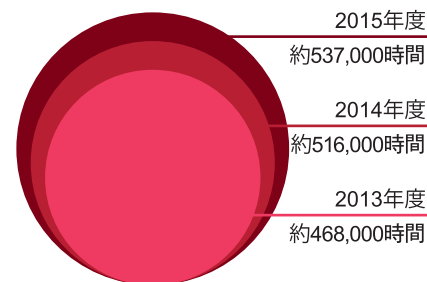
PwC米国法人CR LeaderのShannon Schuyler氏は「EYFの活動は、学生たちの正しい金融知識の習得を最終的な目標としているわけではありません。コミュニティや経済界のより良い未来を担う、次世代のリーダーに必要な知識やスキルを学んでほしいと考えています」と語っている。

PwCのCR活動の実績 (グローバル)

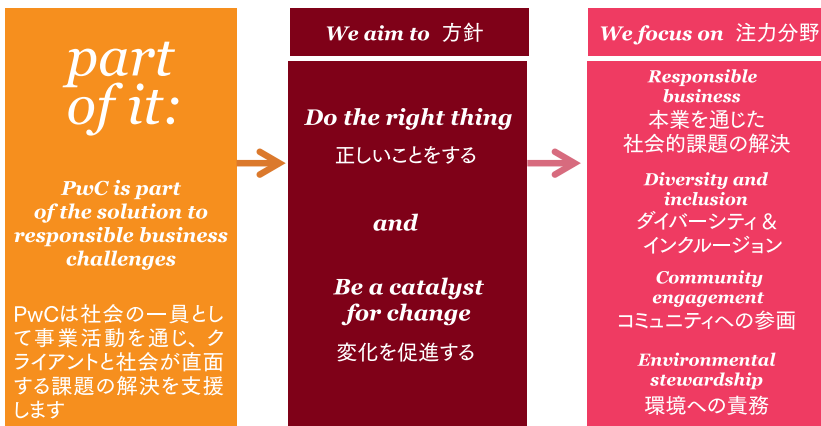
CR活動に参加した人数
(スタッフ数：208,109人)



プロフェッショナルサービス／
専門性を生かしたCR活動への従事時間



CR活動における方針と注力分野



さまざまな活動を行っている。そして、そこには、専門性を生かすという軸が貫かれている。コンサルティングや会計監査といったビジネス上の卓越した専門性を生かすことが、社会全体への大きな貢献につながるかと考えているからだ。キャリア教育を通じた次世代育成の取り組みもCR活動の一環として、PwCグローバルネットワーク全体で行っている。日本ではプライスウォーターハウスクーパースやPwCあらた監査法人などを含むPwC Japanが「キャリア大学」のほかに中高生向けの職業体験学習を提供している。

キャリア大学でのプログラム

PwCあらた監査法人 ‘リスクに経営者とともに立ち向かう’

- 1 限目 “会計士”を知る
- 2 限目 “監査”を学ぶ・体験する (グループワーク)
- 3 限目 発表・フィードバック



「『キャリア大学』のような専門性を生かした活動は、講師役を務める社員にとっても学びの場、成長の機会になると考えています」と語るのは、プライスウォーターハウスクーパースのパートナーで、「キャリア大学」のプログラム責任者を務めた岡田康夫氏だ。

コンサルタントという個人プレーで動くというイメージがあるが、PwCの場合はチームプレーで取り組むのが基本で、社員同士の結束は強い。「PwCのコラボレーション文化や明るい風土も学生に伝わったのではないだろうか」と岡田氏は手応えを感じている。

監査法人も初参加 広がりつつある会計士の 役割を伝えたい

15年の「キャリア大学」にはPwCあらた監査法人も参加した。

監査法人で働く公認会計士は、財務諸表などの数字のみと対峙していると誤解されがちだ。しかし実際の監査法人の役割は、財務や経理という



PwC あらた監査法人
マネージャー

藤井 美明

した。

このプログラムで講師を務めた同法人マネージャーの藤井美明氏が振り返る。

「会計士は企業の財務諸表をチェックする仕事と理解していた学生が多

かったようです。しかし今は企業の社会的信用を高めることで経済社会の発展に貢献するという会計士の役割が、より大きく広がっており、これまで以上に『創造性』が問われています。

企業活動のクロスボーダー化に伴う国際財務報告基準への対応や、社会からの要請に伴う新しいディスクロージャー制度への取り組みなど、急速に変化する時代においてプロフェッショナルとし

て道を切り拓く会計士の姿を知って欲しいと思いました」これに対しては学生からも「会計士という仕事は数字を追うだけでなく、人とディスカッションすることも多く、イメージが大きく変わりました」といった声が寄せられ、会計監査に対する興味を強く喚起したことがうかがい知れた。

存在意義に基づき 社会に貢献する という姿勢

PwCグローバルネットワークは、自らの存在意義を「Build trust in society and solve important problems(社会における信頼を築き、重要な課題を解決する)」と位置づける。もともとコンサルティンクや会計監査という高度で専門的な仕事を通して、社会に貢献することこそ役割と定めているのである。社会に専門性を還元し、自らもその経験から学び成長する。この姿勢は、PwCの企業文化に深く根差しており、これからも引き継がれていくことだろう。



「キャリア大学」のほかにも、中高生を対象とした会計講座や職業体験など、多彩なCR活動を展開している。専門性を生かした活動が広がっていく

interview

専門性を社会で生かし、 日々の仕事でより輝く

PwC Japan
CR リーダー
梅木 典子

『日本版コーポレートガバナンス・コード』が2015年6月に施行され、短期的な財務情報中心の開示から、中長期的な非財務情報を含めた統合的な開示への社会全体の期待が高まっています。私たちは現在、『統合報告』への取り組みを通じたクライアント企業の価値向上を支援していますが、私たち自身もその重要性を理解するからこそCRを強く推進しています。専門性を生かした活動が増えている中、この取り組みが私たちの日々の仕事に輝きを増すものと信じています」

